

## 基準VI 入学

観点VI-1-1 教育理念・教育目的との一貫性から入学者選抜の考え方を述べているか。

点検VI-1-1 教育理念・教育目標との一貫性をもって入学者選抜についての考え方を述べている。

### 【観点に係る状況】

学生の入学選抜は推薦入試と一般入試で行っている。推薦入試では指定校（H18年度40校）と「推薦入試に関する覚書」を交わし、各学校2名の推薦枠を設けている。推薦された学生には学科試験（古文・漢文を除く総合国語）と適正試験および面接試験を課している。一般入試では、平成18年度入試までは学科試験に漢文を除く国語総合、数学、英語、理科を課していた。受験生の変化により応募者の減少が著しいため、平成19年度入試からは学科試験科目の国語総合から漢文と古典を除き、さらに理科を除いた。学科試験合格者について適正試験と面接試験を実施している。平成22年度以降は、新たに募集をしていない。

### 平成17・18年度入学試験

	推薦入試	一般入試
定員	30名	50名
試験科目 学科試験	国語総合（古文・漢文を除く）	国語総合（漢文を除く） 数学Ⅰ・A、英語Ⅰ・Ⅱ 理科（化学・生物）選択
適正試験	あり	あり
面接試験	集団面接・個人面接	集団面接・個人面接

### 平成19年度～21年度入学試験

	推薦入試	一般入試
定員	30名	50名
試験科目 学科試験	国語総合（古文・漢文を除く）	国語総合（古文・漢文を除く） 数学Ⅰ・A、英語Ⅰ・Ⅱ
適正試験	あり	あり
面接試験	集団面接・個人面接	集団面接・個人面接

### 入学試験実施状況（平成19年以降同様）

	推薦入試			一般入試		
	H17年度	H18年度	H19年度	H17年度	H18年度	H19年度
回数	1	1	1	1	1	1
実施時期	H16年11月	H17年11月	H18年11月	H17年1月	H18年1月	H19年2月
実施日数	1日	1日	1日	2日	2日	2日

### 【分析結果とその根拠理由】

入学試験にする長所として学科試験科目の見直しにより応募者数は増加した。学科試験科目を減らすことによって、適正試験や面接試験の内容を重視することになり、本校の目指す看護師を育成するに適した学生を受

け入れることが可能になった。問題点としては、大学看護学科や他校が受験機会を増やして受験生への配慮を行う中で、本校は従来どおりの受験機会しか与えていない点は受験生への配慮を欠く結果となっている。改善策としては、一般入試を前期と後期の2回に分けるなど受験機会を増やすことが必要である。

観点VI-1-2 入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析し、検証しているか

点検VI-1-2 入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析し、検証している。

【観点に係る状況】

志願者・合格者・入学者の推移に関しては、大学看護学科の新設が相次ぎ、受験生は大学志向者が増加している。本校の一般入試受験志願者は毎年200名前後でほぼ一定している。しかし、平成14年度・平成15年度の応募者数はそれぞれ177名・188名の応募があり、定員に対する応募者数の比は7~8倍であった。しかし、平成16年度から平成18年度の比は3.3倍~5.5倍となった。これは2年課程の閉鎖により、3年課程の定員を40名から80名に増やしたことによるものと考えられ、実質的な応募者の減少によるものではない。推薦入学については、受験志願者数が減少傾向にあり、学生の大学志向が原因となっているものと考えられる。合格者数に対する入学者数は毎年70%前後であり、大きな変化はない。学生収容定員に対する在学学生数は100.1%~103%で、大幅な定員超過の状態ではない。進路変更などによる退学者が出るため、多少の定員超過は止むを得ない。本校では教室や実習室に十分な面積をとっているため、現状の定員超過による学生の学習環境へのマイナスの影響はない。

平成21年度以降は、定員が超過するようなことは無かった。

志願者・合格者・入学者の推移

一般入試	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
平成17年度入試	274	236	78	54
平成18年度入試	167	153	77	54
平成19年度入試	226	189	82	62
平成20年度入試	256	233	88	66
平成21年度入試	224	203	71	53
推薦入試	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
平成17年度入試	31	31	20	20
平成18年度入試	38	38	32	32
平成19年度入試	25	25	20	20
平成20年度入試	18	18	16	16
平成21年度入試	13	13	10	10

収容定員数

3年課程	第1学年	第2学年	第3学年	合計
平成16年度	40	40	40	120

平成 17 年度	80	40	40	160
平成 18 年度	80	80	40	200
平成 19 年度	80	80	80	240
平成 20 年度	80	80	80	240
平成 21 年度	80	80	80	240
平成 22 年度	—	80	80	160
平成 23 年度	—	—	80	80
2 年課程	第 1 学年	第 2 学年		
平成 16 年度	40	40		80
平成 17 年度	募集停止	40		40
平成 18 年度	-	-		閉鎖

在籍学生数

3 年課程	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	合計
平成 16 年度	41	40	42	123
平成 17 年度	84	39	40	163
平成 18 年度	87	82	39	208
平成 19 年度	82	86	80	248
平成 20 年度	84	77	82	243
平成 21 年度	67	78	74	219
平成 22 年度	—	65	74	139
平成 23 年度	—	—	61	61

2 年課程	第 1 学年	第 2 学年	
平成 16 年度	43	40	83
平成 17 年度	募集停止	43	43
平成 18 年度	閉鎖	-	

各年度 4 月 1 日

【分析結果とその根拠理由】

長所としては、受験生の大学志向が強まる中で以前と同様の志願者数を得ていることは、本校の教育が評価されているためであると考え。問題点は、新卒者の入学生が多く、今後の受験生人口の減少は志願者数減少の原因となることが予想され、限られた人数の中で本校が求める看護師に適した人材の選抜が難しくなる可能性がある。改善策としては社会人入学枠を設定するなどして、看護師としての適正のある社会人入学の方策を立案する。

学生の収容定員と在籍学生数に関しては定員超過率は低く、『保健師助産師看護師学校養成所指定規則（昭和 26 年 8 月 10 日 文部省・厚生省令第一号、最終改正：平成 18 年 3 月 31 日 文部科学省・厚生労働省令第 1 号）第 4 条第 5 項』に準じている。問題点としては、近年進路変更などによる中途退学者が増加する傾向がある。学生収容定員を厳守した場合、卒業生数は定員を下回り、看護需給にマイナスの影響を及ぼす。これらを改善するために、入学試験時、毎年の傾向から定員割れを起こさない合格者数を予測し、その選考にあたって

は看護師への強い動機をもつ学生を選抜し、入学後は、その動機を維持できる教育を継続する。

## 2. 優れた点及び改善を要する点

### 【優れた点】

- ① アドミッションポリシーを学校案内やホームページなどに掲載し、入学者選抜の考え方を明示している。
- ② 入学者状況や入学者の推移については年次的に解析している。入学選抜方法の妥当性については、入学後の学習や生活支援上の大きな課題を抱える学生について個別に検討している。

### 【改善を要する点】

- ① アドミッションポリシーに「看護師にならんとする強い意志のあるもの」を付加する必要がある。  
学生便覧には、21 年度入学生まで、本校の基本理念に追記する形をとらず、日々の指導等に学習を継続するための意欲喚起を行っている。学生は困難な状況があると回避傾向を示す場合もあるが、学生間のグループダイナミックスなどを活用し「意志」を再確認している。
- ② 受験生に対して受験機会を増やすために、現在行っている推薦入試以外に後期入試を行う必要がある。  
平成 20 年度入試より一般入試を、前期・後期の 2 期制をとっている。平成 22 年度は募集停止となる。

## 3. 基準Ⅵの自己評価の概要

総じて安定した入試体制であり、その運営も円滑に行っているが、来る数年間の 18 歳人口の減少を念頭に、現役受験生の変化に対応するための改善と受験機会の提供を積極的に行う必要がある。